

Immediate Press release 2016.3.8

## ライアン・マッギンレー BODY LOUD

Ryan McGinley BODY LOUD

謹啓 春暖の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対して、格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2016年4月16日〔土〕より7月10日〔日〕まで、「ライアン・マッギンレー BODY LOUD」を開催致します。

ライアン・マッギンレー（1977-）は、2003年に25歳という若さでニューヨークのホイットニー美術館で個展を開催し、以後もポートレートと風景写真にさまざまな新機軸を打ち出して「アメリカで最も重要な写真家」と高く評価されています。

マッギンレーは、北米の田園風景、野外コンサート会場、あるいはスタジオのなかで、巧妙に光を操りながら場面を設定しつつ、被写体の予期せぬ動きや“ハプニング”を意識的に取り入れて撮影を行います。過去のさまざまなヴィジュアルイメージを参照しながら、微細で洗練された色彩と構図の作品が表現する、自由で過激、そしてときに純粋なユートピアのような世界は、古き良きアメリカのイメージと重なると同時に、仮想と現実が混在する現代という時代をそのまま反映した表現となっているといえるでしょう。

日本の美術館では初個展となる本展では、作家自選による、初期から最新作までの約50点でその全貌を紹介いたします。

本展覧会の概要と見どころを紹介致しますので、「ライアン・マッギンレー BODY LOUD」を貴誌媒体上では是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。


謹白

### 【開催概要】

展覧会名： ライアン・マッギンレー BODY LOUD  
 会期： 2016年4月16日〔土〕—7月10日〔日〕  
 会場： 東京オペラシティ アートギャラリー  
 開館時間： 11:00—19:00（金・土は20:00まで／最終入場は閉館の30分前まで）  
 休館日： 月曜日（5月2日〔月〕は開館）  
 入場料： 一般1,200（1,000）円／大・高生800（600）円／中学生以下無料

- \* 同時開催「収藏品展 055 はなのなかへ」「project N 64 タナカヤスオ」の入場料を含みます。
- \* 収藏品展入場券200円（project Nを含む / 割引無し）もあり。
- \*（ ）内は15名以上の団体料金。
- \* 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。
- \* 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ： 03-5777-8600（ハローダイヤル）

ウェブサイト： <http://www.operacity.jp/ag/exh187/>  <https://www.facebook.com/tocag/>

主催： 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団  
 協賛： NTT 都市開発株式会社  
 協力： Team Gallery, New York / 小山登美夫ギャラリー

## ライアン・マッギンレー 日本初の大規模個展ついに実現

### 今もっとも注目される写真家ライアン・マッギンレー

ライアン・マッギンレーの名前を一躍有名にしたのは、まだほとんど無名だった彼が2002年に制作した最初の写真集『キッズ・アール・オールライト (The Kids Are Alright)』でした。インクジェットの手づくりによるこの写真集をマッギンレーは編集者や美術関係者に送ったところ、『Dazed & Confused』『Index』『i-D』などの雑誌からオファーが届き、翌年にはホイットニー美術館で個展が開催されました。25歳という若さでの個展は、ホイットニー美術館の歴史で最年少を記録するものでした。「アメリカで最も重要なアーティスト」と高く評価され、以後、アメリカ、ヨーロッパで数多くの個展を開催し、日本はもちろん世界的に注目される人気アーティストとして活躍をつづけています。

本展では、最初期の〈出会い〉シリーズから、〈ロード・トリップ〉、〈モリッシー〉、〈イヤブック〉、〈グリッド〉、〈アニマルズ〉、そして最新作の〈秋〉〈冬〉までのシリーズから厳選した約50点で、マッギンレーの全体像を紹介します。

### 解放された精神の自由を捉える「ヌード」の美しさ

マッギンレーの作品に登場する人物たちは、そのほとんどがヌードです。とくに特徴的なのが、見渡すかぎりの広大な草原のなかを疾走し、小高い木の上から飛び、雪原に横たわる全裸の被写体たちの奇妙な行為です。彼らは皆プロのモデルではなく、マッギンレーは、衣服を脱いだ彼らがふと垣間みせる一瞬のふるまいを作品にしています。マッギンレーのヌード写真は、表面的な美しさと言うよりも、日常の制約や束縛から解放された精神の自由を捉えているといえるでしょう。被写体となる人物が、思わず自己を忘れて自由奔放に振る舞う瞬間こそが、モデルとの共犯、つまりマッギンレーが共同作業と呼ぶ制作姿勢なのです。

### 撮影を“演出する”取り組みへと変化した〈ロード・トリップ〉

マッギンレーの代表作の数々が生まれ、彼の作品の代名詞ともなっているのが、2004年から着手された〈ロード・トリップ〉シリーズです。2004年夏、マッギンレーは、モデルになる友人たちと一緒にアメリカ横断旅行に出かけ、北米の豊かな自然を背景に撮影を行いました。この〈ロード・トリップ〉は、2013年までの10年間続けられました。

〈ロード・トリップ〉では、マッギンレーは撮影に先立って、モデルたちに自分が集めたさまざまなヴィジュアルイメージをまとめた「インスピレーションブック」をみせて、イメージを共有します。ヌードの若者たちが、広大な草原を走り、木の上からジャンプするなど、本人が思わず自己を忘れて自由奔放に振る舞う瞬間、一糸まとわぬ姿で人間の中に秘められた野生の姿を捉えています。また〈ロード・トリップ〉では、「古き良きアメリカ」を思わせる牧歌的で平和な田園風景が印象的です。ロードムービーのような終わりなき旅、そして出会いが作品と直結していると言えるでしょう。

### 500枚のポートレートで構成する大作〈イヤブック〉

野外での撮影と並行して、マッギンレーは2008年以降ニューヨークの市内でモデルをスカウトして、スタジオでヌードになった彼らを撮影するプロジェクトを行っています。これがライフワークとして今も続く〈イヤブック〉(英語で年鑑、高校や大学の卒業アルバムを意味する)と呼ばれるシリーズです。2014年にニューヨークのティーム・ギャラリーでの個展では、同ギャラリーの壁から天井までを埋め尽くす空間インスタレーションとして発表され、その色彩とイメージによって強烈なインパクトを与えました。今回はアートギャラリーの展示室の壁面約20メートルをつかって展示されます。色とりどりの背景のポートレイトを大小さまざまに自在に配置したインスタレーションは必見です。



《Jacob (Red Blueberry)》, c-print, 2015  
©Ryan McGinley



《Jessica & Anne Marie》, c-print, 2012  
©Ryan McGinley



《Taylor (Black & Blue)》, c-print, 2012  
©Ryan McGinley



《Bald Eagle (Pink)》, c-print, 2012  
©Ryan McGinley



《Ivy (Bubbles)》, c-print, 2015  
©Ryan McGinley

■「ライアン・マッギンレー BODY LOUD」リリースに関するお問い合わせ  
東京オペラシティ アートギャラリー  
【展覧会担当】堀,佐山 【広報担当】吉田  
Tel:03-5353-0756 / Fax:03-5353-0776 / Email: [ag-press@toccf.com](mailto:ag-press@toccf.com)